

熊日1971.10.08

隠れ水俣病

第三部

<2>

名のり出た三人

「水俣病の疑い、両側上下肢(し)にしびれ感があり、かつ末しょう神経性知覚障害を認める。一直線上の歩行時には動揺を認める。」

やはり天草も

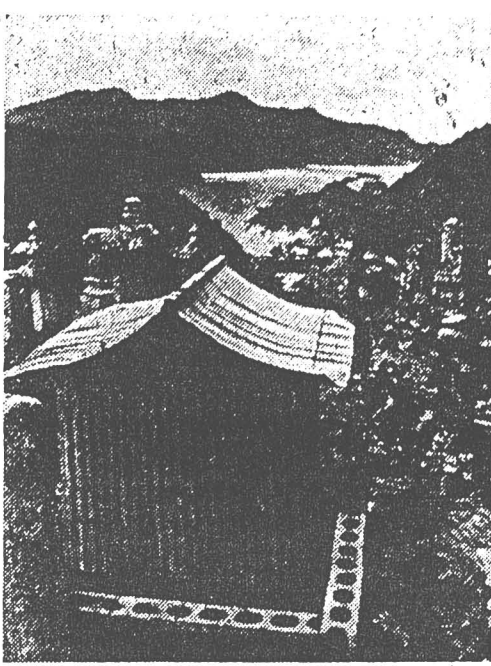
九月中旬、水俣病の調査を申請した天草郡御所浦町大浦、元漁業Aさん(仮)のカルテには、こう書き込まれていた。

Aさんは軒の低い漁家が建ち並ぶ大浦地区の中心部に住んでいる。古ぼけた一間っきりの家。その裏に、かつて魚釣りの名人といわれたAさんは、赤銅色に日焼けしたからだを横たえていた。

「船夫の先生がいらしたので、もうたつてすまい。わしとしては水俣病なんて意識しておらじやう。町の病院ではもう年た

な、と言われどりましたもん。あれは五、六年前のことじゃう。浮いどりましたな。ネコや豚もアワ吹きして、くるくる舞うて死に汗かきになって手届がしびれる。魚釣りに行っても手が感じんとですもん。そういえば、十

四、五年前、海にはチウオがよた。他の二人は元船夫と云ふと無職の女性と云ふで、いずれも熊本・水俣病を告発する会の医陣の診察を受け、名のり出た人たち。三人とも多量に魚を摂取し、手足のしびれ、筋肉の萎縮など水俣病に



天草・水俣病の証患者—920PPMの毛髪水銀量を記録した老女は畳の下にひっそり眠っていた(御所浦町柵ノ木)

近い症状を持っていたという。このことは、いぜんから言われ

「なにしんが耳に水でしたから。テレビや新聞で初めて知ったんです。水俣病といつても、十数年前の頃でしょう。いまも汚染されてるからにいわれは困る。名のり出た人たちについて

町の大多数が漁業で生活しているだけに、漁民の受け止め方も複雑。ある漁民は「イリコを関西の瀬に送つたら、大丈夫かと手紙が来た。水俣の魚と御所浦の魚では違つし、潮の流れも関係ない。もし仮に、不幸にして水俣病の人がいたとしても、それは水俣の魚を食べた人です。自分の健康のことだから早くはつきりして

不知火海に浮かぶ御所浦は美しい島々だ。おだやかで、澄んだ海、したたるような島の緑、景気よく行きかう漁船。人情豊かな天草の中でも、もっとも天草らしい島。だがこの島の不幸は、水俣とわずかに十数年の対岸にあつたというところだ。島の南いところへ登ると、チッソの白い煙が手にとるよに見える。

九二〇PPMの証言

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

苦しみの果て、死が

御所浦 確実にあった水銀汚染

いた隠れ患者の存在を裏づける形となり、島の人たちに深刻な

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」

「病つたときが六十ぐらいじゃつた。病弱をいくつも回つたが、この町で、十数年前、ネコが狂い死にし、漁民が抗議の旗を押し立てて不知火海を渡り、チッソに補償を迫つたのも事実だ。三十六年に熊本県研究所が実際に御所浦の毛髪水銀量調査でも、島の漁民の水銀量が異常に高かつたことは、まぎれもない事実なのである。」